



岩戸屋寫真帖

はしがき

◎ 敬神崇祖の美風をなす我國民の全國より子來せられます
參宮旅客は一ヶ年數百萬人を算し、しかも年と共に其數
の増加せらるゝ際。

◎ 旅客が塵埃にまみれたる旅裝のまゝ宮域に參入し、奉拜
所に手荷物如山積なし且つ雨天等の際は其混雜の状態を
痛感せらるゝ團體參拜客の利便を計る目的にて幸ひ宇治
橋前に大店舗を有する。

◎ 伊勢名産お多福印生姜糖元祖としての岩戸屋も時世の推
勢に依り今は店主及び全店員百數十名出資の株式會社と
組織を改めて本店筋向側に數百坪の地をトシ直營の物産
店大食堂、無料大休憩所、の設備を完成し伊勢神宮御參
拜の學校及其他団体客の御利用を待つ事となりました。

◎ 昭和十一年度に於ける學校及び參宮團體の岩戸屋無料休
憩所御利用數は、

▽ 各驛長主催団体、工場慰安旅行。其他

大小參宮團體

七百七十八團體

▽修學旅行學生

千六百四十三校

右の様な數字であります。

◎弊方の最も誇りとするは此内三重縣下の學校が二百七十校であります。ツマリ學校から旅行をせらるゝ縣下の學校の殆んど全部が岩戸屋休憩所を御利用下さるのであります。

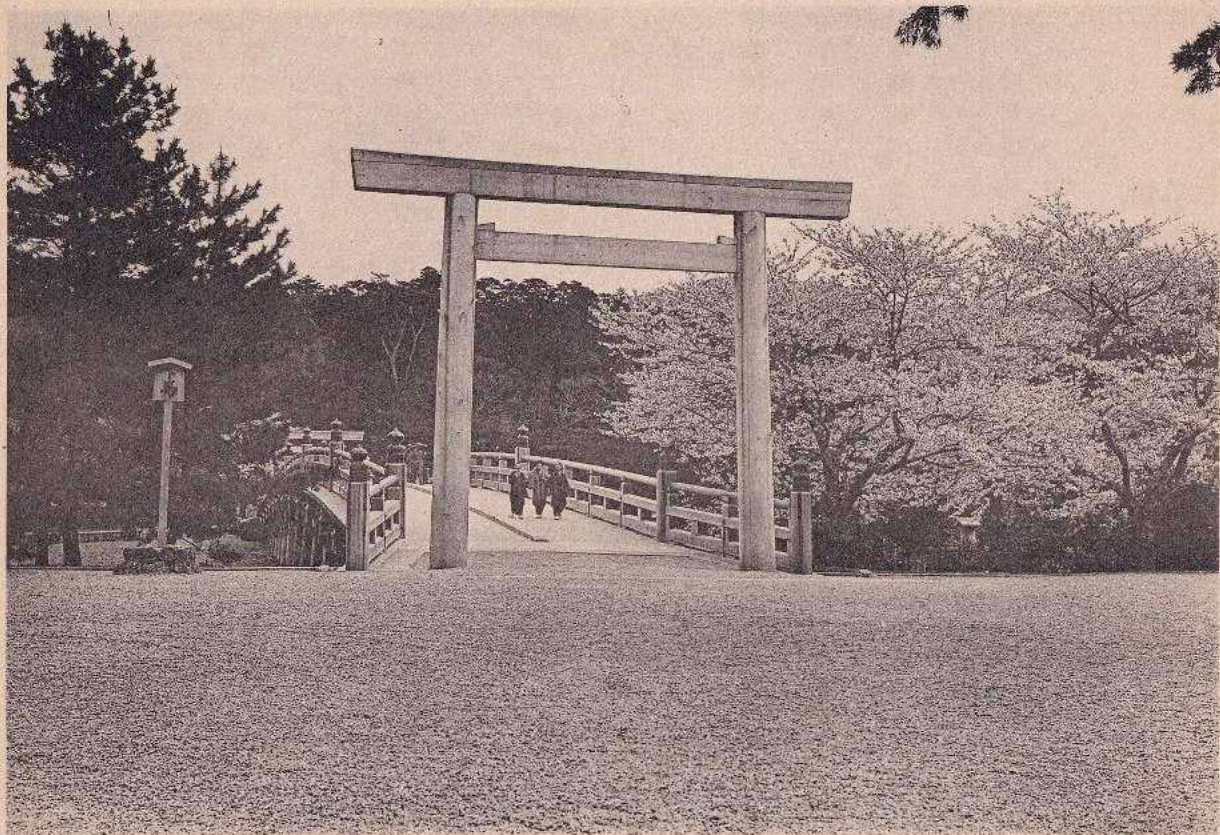
◎斯くの如く縣下の學校に御信用を得て居る事は岩戸屋の信用を裏書きせらるゝのと同じで弊方の最も感謝にたへないのであります。

◎學校及び各種參宮團體の御休憩は、(御中食なく共お買物なく共一向差支へありません)……是非岩戸屋無料休憩所の御利用を希望致します。

昭和十二年三月

伊勢内宮
(宇治橋前)

岩戸屋



伊勢神宮宇治橋



岩戸屋ノ店頭ヲ護ル
有名ナオ多福木像



伊勢名産 生薑の糖戸 本家岩戸屋總本店全景

雑沓の場合
代金は品物と引替に
お渡しを願います



岩戸屋總本家店內



所内案屋戸岩・前點終車電宮内



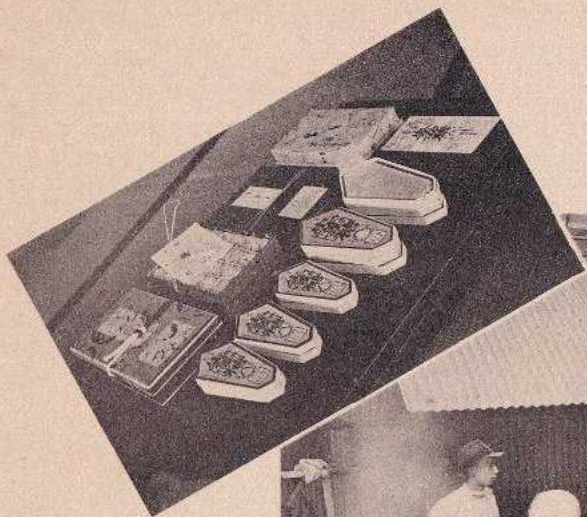
(目軒二リヨ橋治宇) 堂食大 營直屋戸岩
 (側向筋店本) 店産物



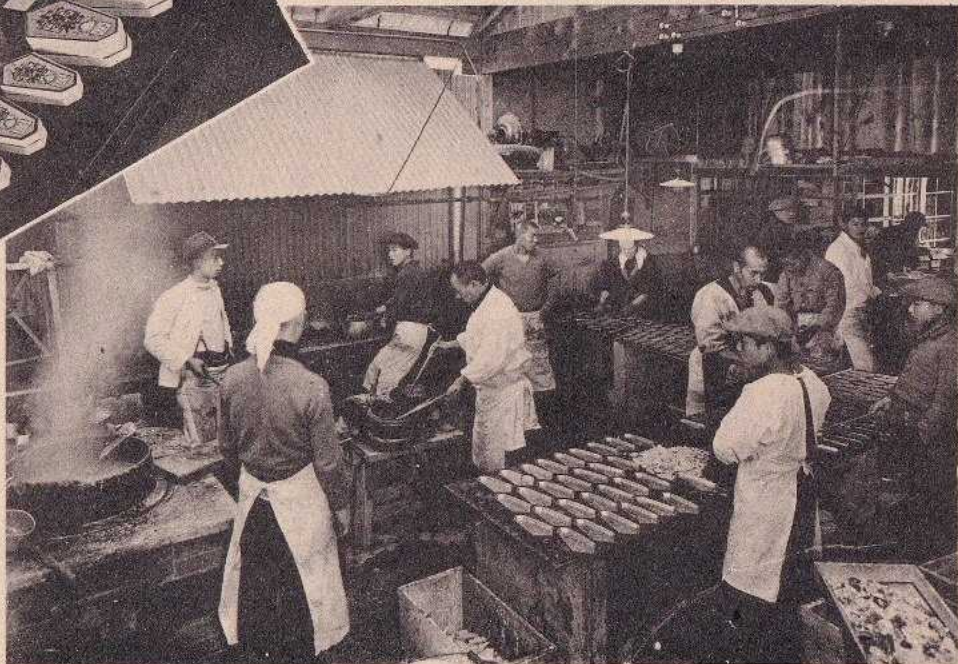
部一ノ造製(戸の岩)屋戸岩



部一ノ造製(戸の岩)屋戸岩



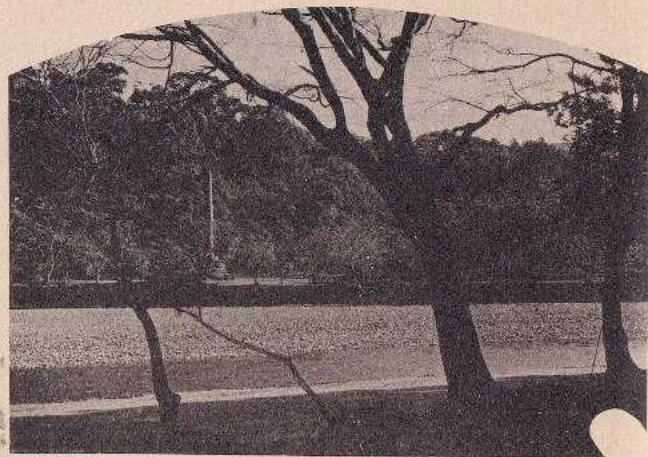
岩戸屋ノ製品
(岩の戸)(生姜糖)



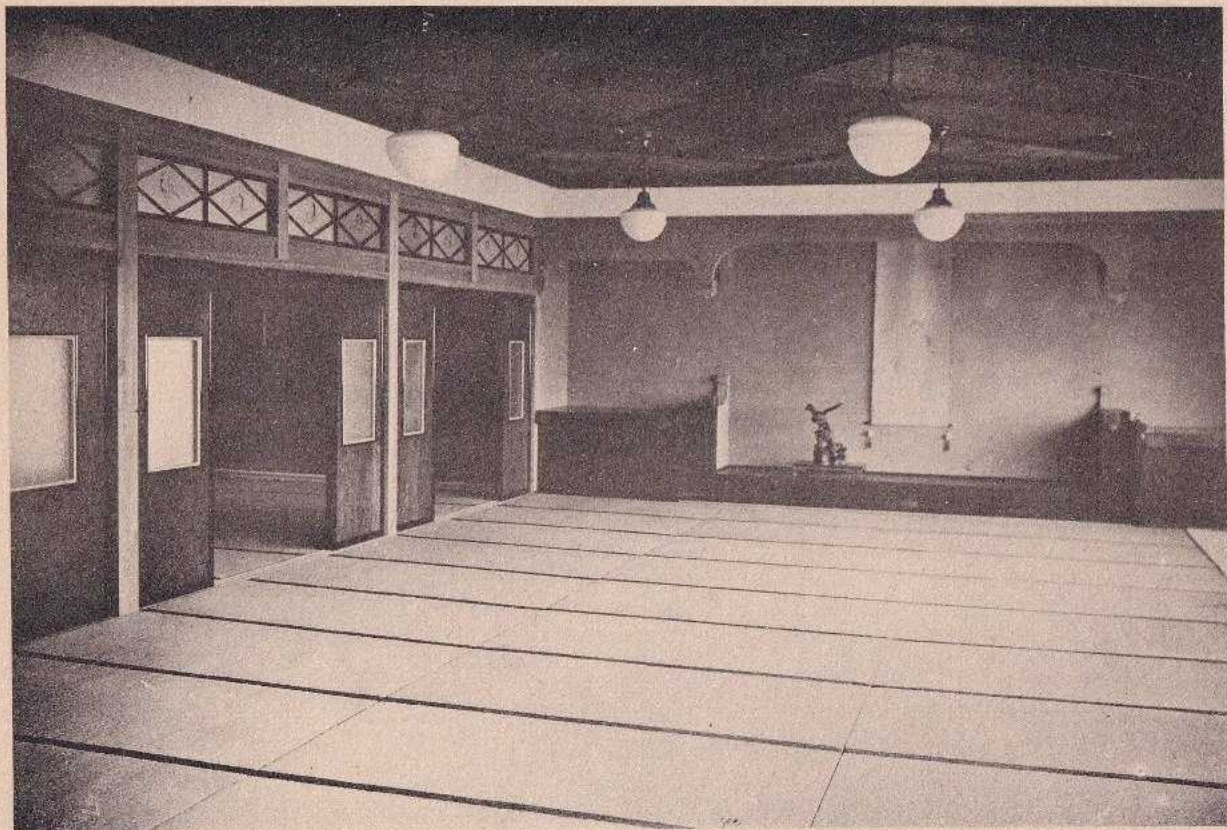
岩戸屋(生姜糖)製造ノ一部



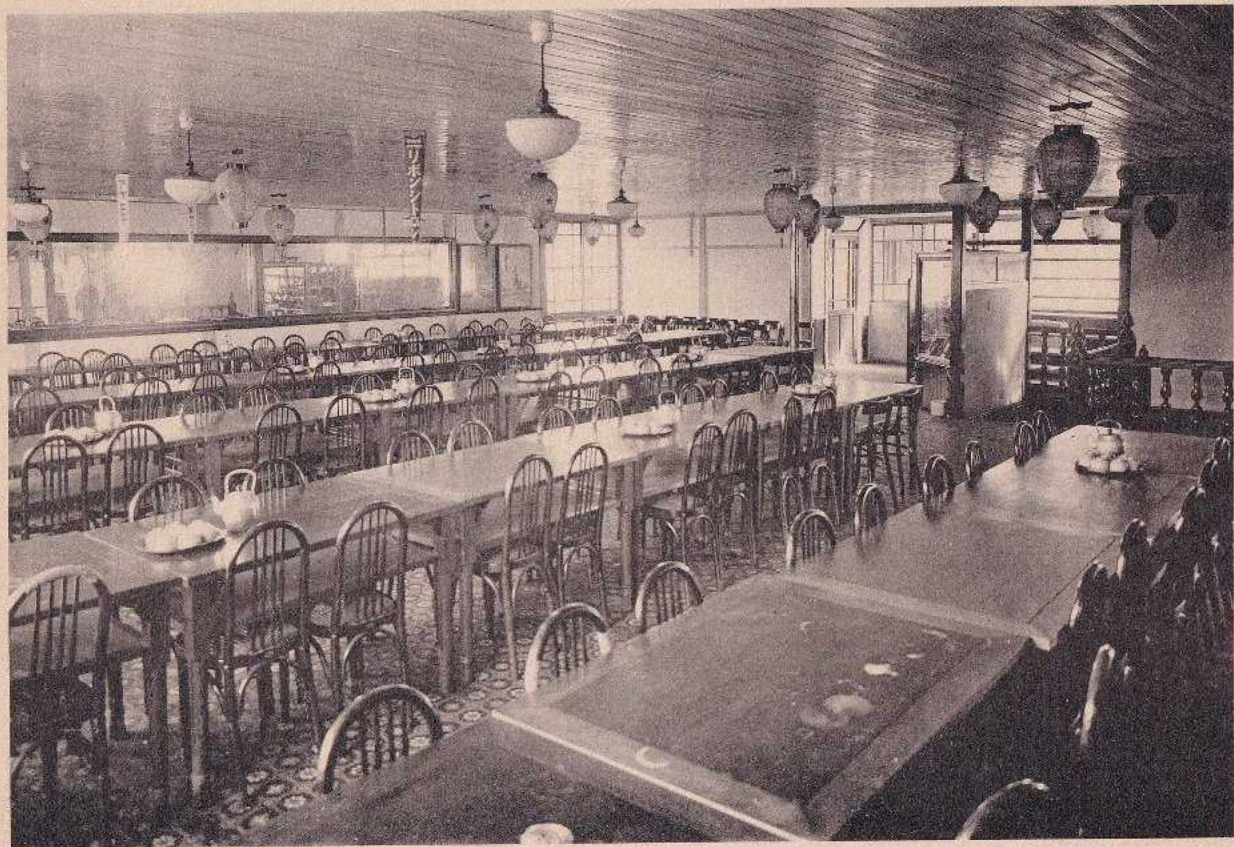
物築建大ニ見ニ間林) ルタ見リヨ川鈴十五
所憩休大屋戸岩



ルタ見リヨ所憩休屋戸岩
苑神ト川鈴十五



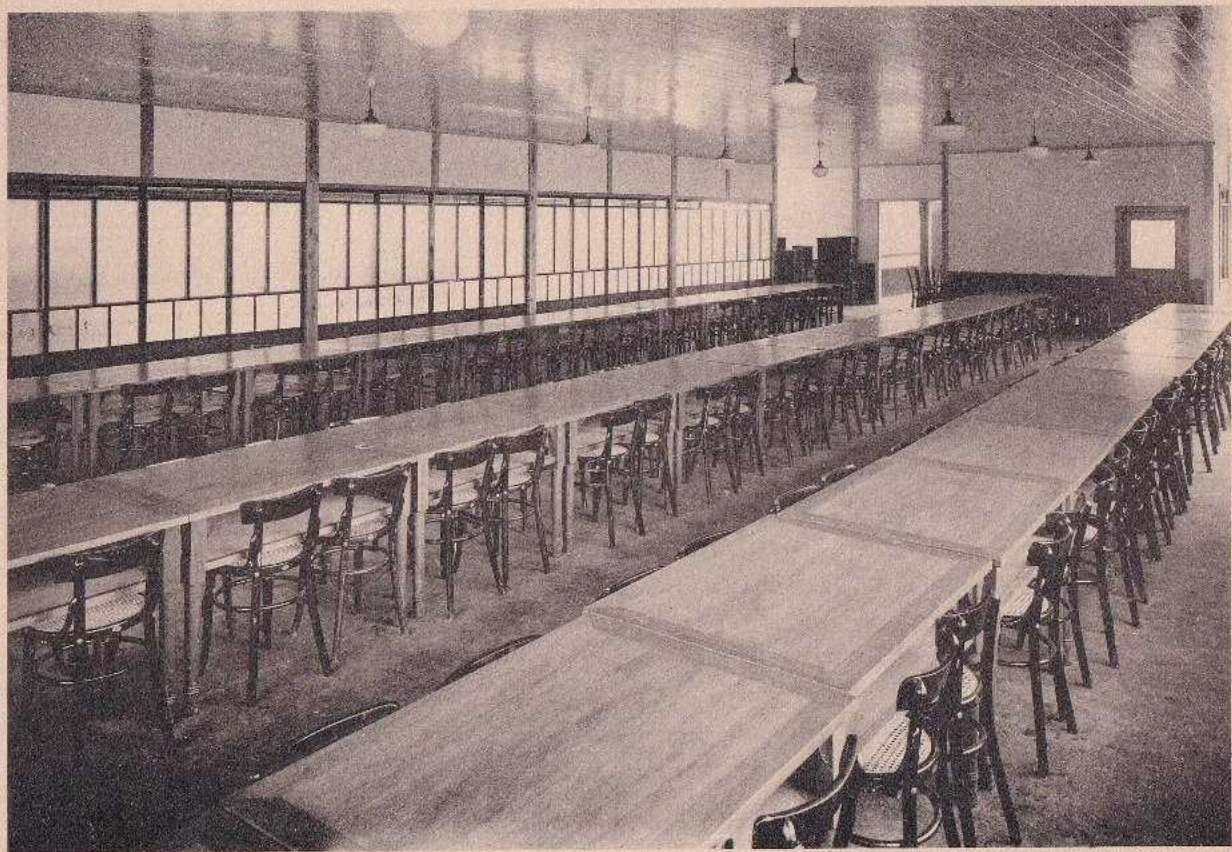
階上(舊館)疊席休息所ノ一部



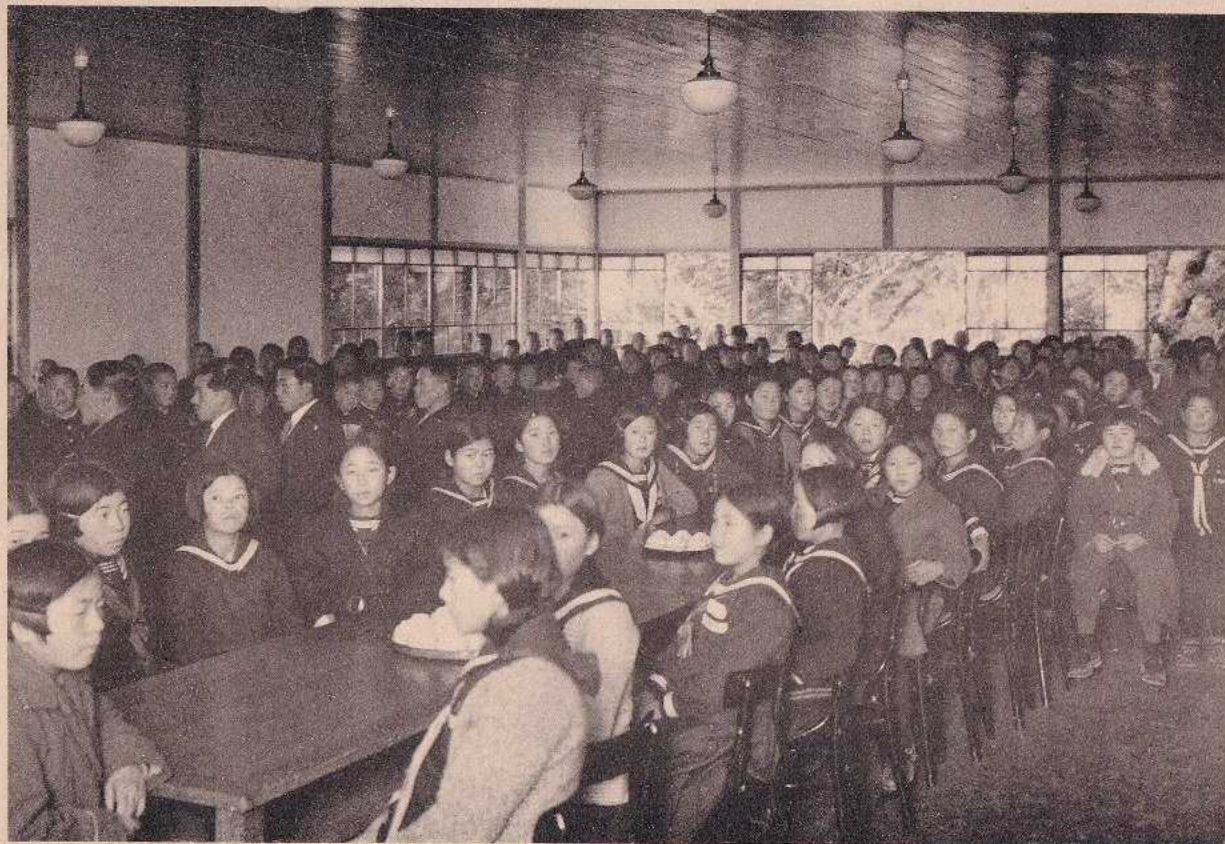
部一ノ所憩休席子椅（館舊）上階



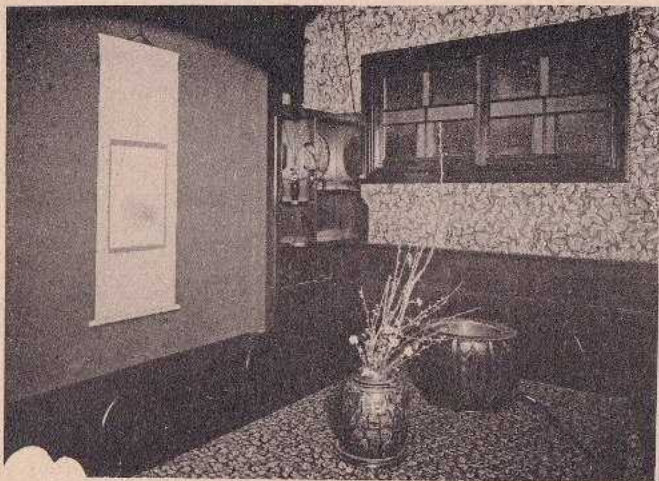
部一ノ所憩休席子椅(館新)下階



部一ノ所憩休席子椅(館新)上階

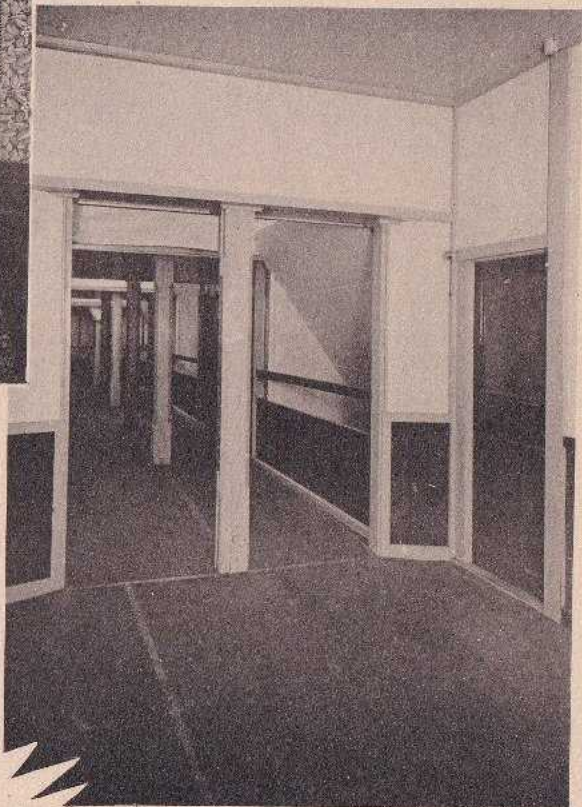


景ノ息休御校學小ニ所憩休



部一ノ室部幹所憩休屋戸岩

(リア備設所ヶ一ニ所憩休各ハ室部幹)
 ッ當ニ用御ノ部幹體團員職校學)



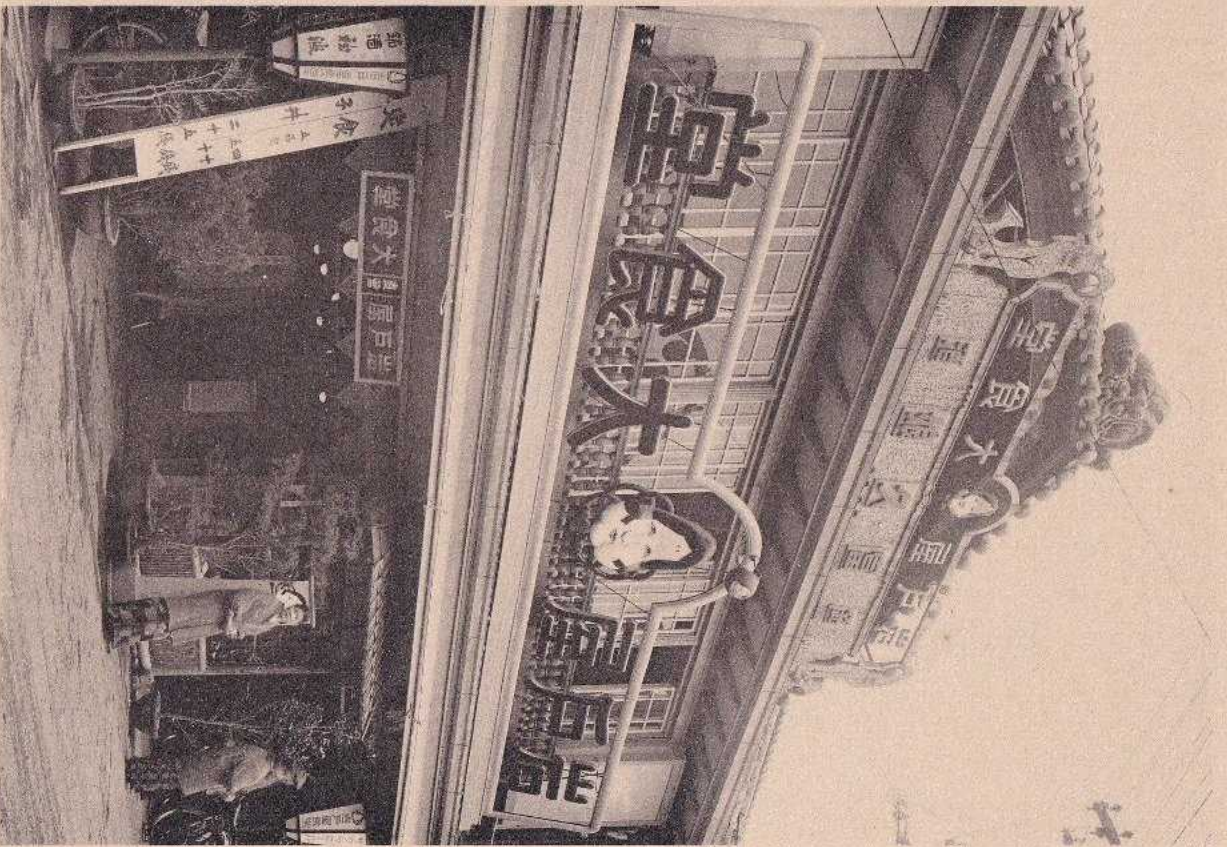
路通ノ館新館舊上階所憩休



部一ノ内店・店産物屋戸岩



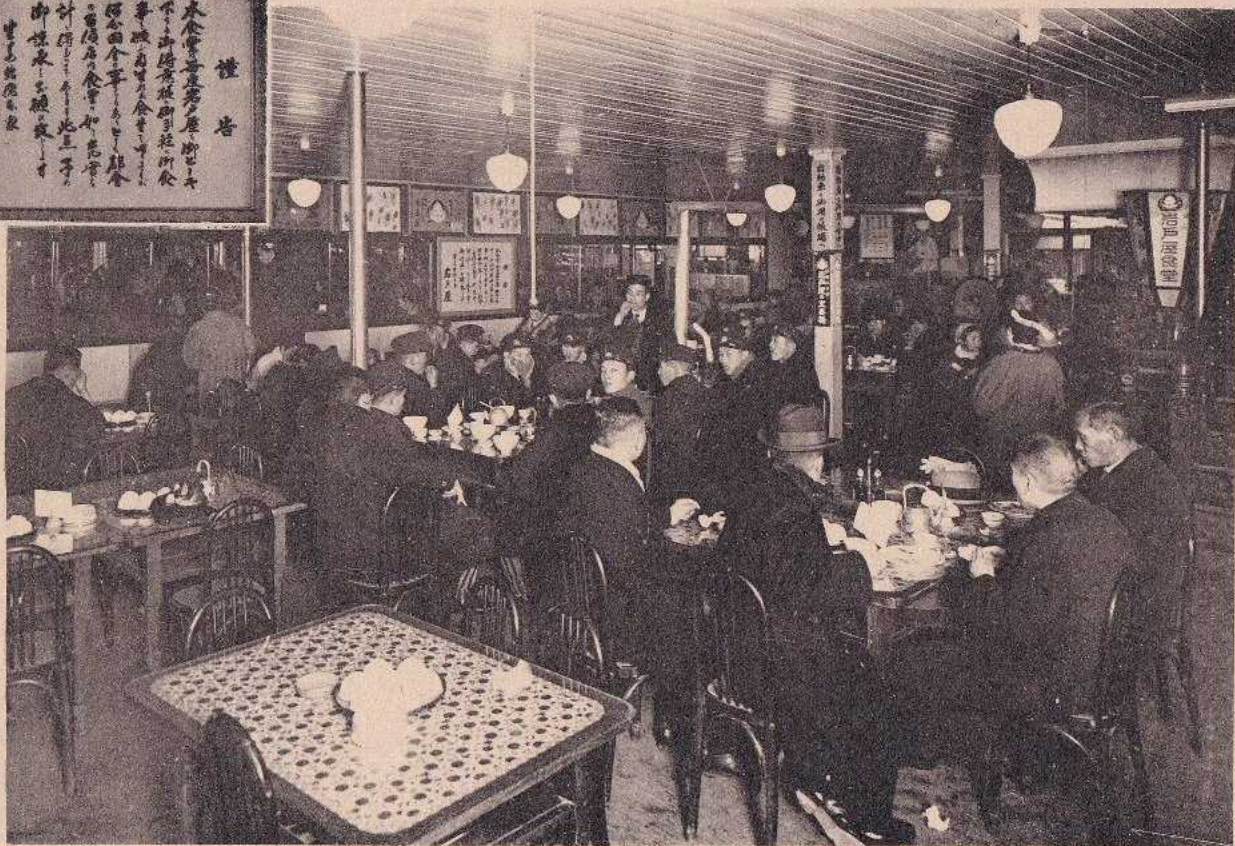
部一ノ内店・店産物屋戸岩



岩 戶 屋 食 堂 店 頭

禮告
 本會爲普及慈善事業起見
 特設此食堂以資救濟
 凡貧苦者均可在此進食
 計開辦以來已逾三年
 幸蒙各界人士踴躍贊助
 不勝感荷之至
 此佈
 忠戶慶

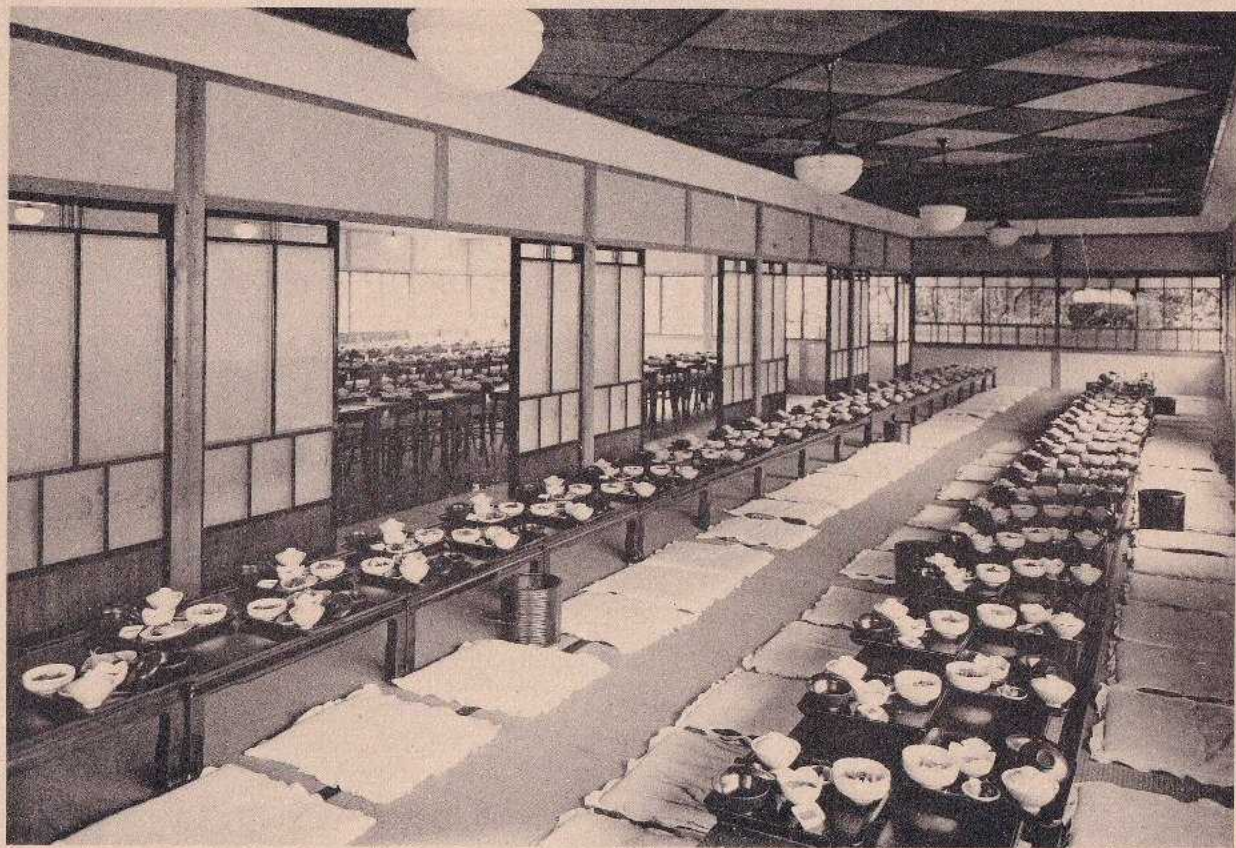
食堂內揭示板



食 堂 普 通 席 一 部



階上團體席階段



部 一 、 席 體 國 上 階



階上團體椅子席の一

謹告
 一華食堂中は酌婦の
 鑑札を所持いたしまん
 隨之御給仕は遠慮いたし
 御自由の御召上下おまて
 御用の節は座敷外まはら
 呼命を御使用下さい
 御茶料女中付等
 一切御前にお上り
 以上



階上食堂ノ揭示板

階上團體座席ノ一部



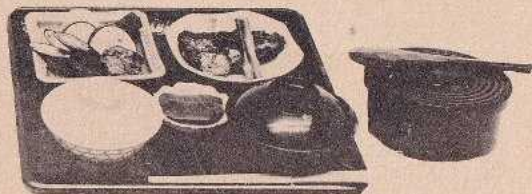
景ノ中事食御體團



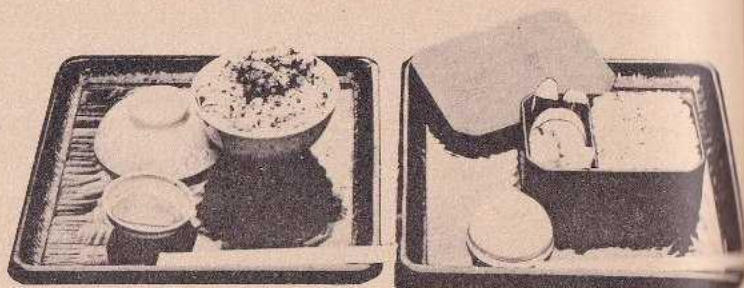
部一ノ室理調堂食



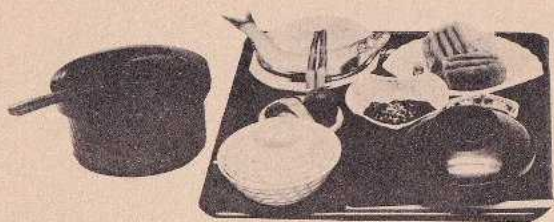
部一ノ室理調堂食



食中御ノ度程錢十四リヨ錢十三



度程錢十二リヨ錢五十并及當辨御用生學



食中御ノ度程錢十五リヨ錢十四



當辨御ノ度程錢五十三リヨ錢十二

集眞寫屋戸岩

家本總 糖戸の姜生

行發部傳宣店本屋戸岩

四四七・五五二電 前宮内勢伊

所 刷 印

社藝工刷印畫繪社會式株

三一五一・八一一一・七一一電 前宮外勢伊

伊勢の
岩戸屋の
生姜糖



伊勢名物

岩戸

正名で言ふあま味

伊勢内宮前
名産 糖總本家

岩戸屋

本店向側 岩戸屋 食堂

公 岩戸屋 物産店

公 岩戸屋 休憩所

内宮電車終点前

岩戸屋御案内所

参道大神宮前驛内

岩戸屋出張所

電話一三四六

